

2026年3月期 中期経営計画の進捗 (2024/3期～2028/3期)

発表 : 2026年5月7日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © 2026 Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.



...for patient comfort.

- ✓ 世界規模でのインフレリスクが顕在化しつつあり、利益圧迫のおそれ
- ✓ 高齢化で医療需要のさらなる高まりは追い風。一方、供給サイドに持続可能性のリスクあり
- ✓ PFAや血管内治療など、治療トレンドは常に変化 ⇒ ビジネスチャンスに変えていく

項目	業績影響	外部環境認識	実行中の打ち手
経済	やや逆風	(-) マクロ経済要因からもたらされる円安・インフレ ⇒ 価格転嫁が困難な業界構造で 利益圧迫	- 賃上げを図りつつ業務効率を改善 - グローバル戦略の推進 (国内オンリーリスクの分散)
社会	追い風	(+) 高齢者の基調的な増加 (±) 外科から 血管内治療へのシフト が進む (-) 医療供給体制のひっ迫	- 血管内治療のプロダクト強化 - 医療効率化に貢献する製品探索
技術	追い風・逆風 両面あり	(+) 再生医療技術の進歩 (-) 新たな不整脈治療技術の浸透 (PFA) ⇒ 一部の既存製品が影響を受ける	- Heartseed社との協働・提携 - PFA関連の自社製品の開発
政治	逆風(縮小)	(+) 公定改定の 下落幅縮小 (26/6改定)	価格競争の回避、製品改良

✓ おおむね順調に進むが、構造的心疾患や消化器の進捗に遅れ

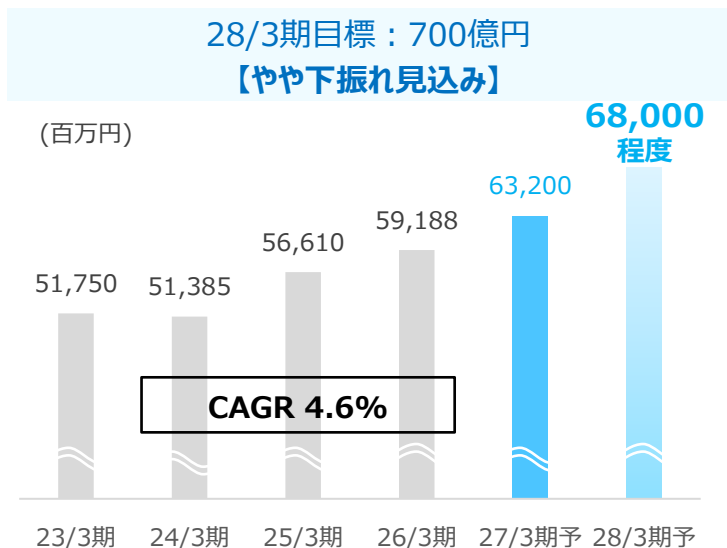
事業		当面の戦略	進捗 (26/3時点)	評価
既存領域	EP/ アブレーション	・ ニッチトップシェアの継続	・ 除細動カテーテルで 95%シェア継続 ・ 止血デバイスの浸透は想定超	◎
		・ PFAに適応した製品改良、パイプライン開発	・ 中隔穿刺ワイヤ(自社製品) を2026/3に上市済み ・ M&A案件の探索に継続的に取り組む	○
	心血管関連	・ ニッチトップシェアの継続	・ Frozen Elephant Trunkは 90%シェアを継続	○
		・ 「トータル・ポートフォリオ戦略」の追求	・ 胸部ステントグラフト (仕入) の導入準備が進捗中	○
新領域	消化器	・ 胆膵領域で自社カテーテル技術を活かしたユニークな自社製品を上市	・ 胆管チューブステントは成功を収める一方、胆道鏡は中国メーカーの新規参入等を受け、撤退 ・ 事業全体として、当初目標には未達	△
	脳血管関連	・ 脳血管内治療でトータル・ポートフォリオ (仕入品) を展開	・ 上市済み製品は順調に拡大 ・ フローダイバーター治験登録完了 (26/3)	○
	構造的心疾患	・ 弁膜症治療 (TAVI) へ参入 (仕入品)	・ 薬事戦略の見直しにより、 上市時期が大幅に遅れる見通し	×
グローバル		・ フェーズ 1 : 中東アジア地域への進出	・ 順調に新規の国と代理店を開拓中	○
		・ フェーズ 2 : 米国承認取得に向けた準備	・ FDA基準に適合するグローバルQMS体制を構築中	○
OEM		・ 自社R&Dと製造機能をOEMにも転用	・ 再生医療のHeartseed社と協業・提携が進捗中 ・ マレーシア工場で OEM製造移管 が進捗中	○

◎ = 前倒し/想定上回る ○ = おおむね想定どおり △ = やや遅れ/想定下回る × = 大幅な遅れ (いずれも2025/5時点の計画比)

財務KPIの進捗/見通し①（売上高・営業利益）

✓ 売上高はおおむね順調。営業利益は27/3期をボトムに上向く公算

売上高



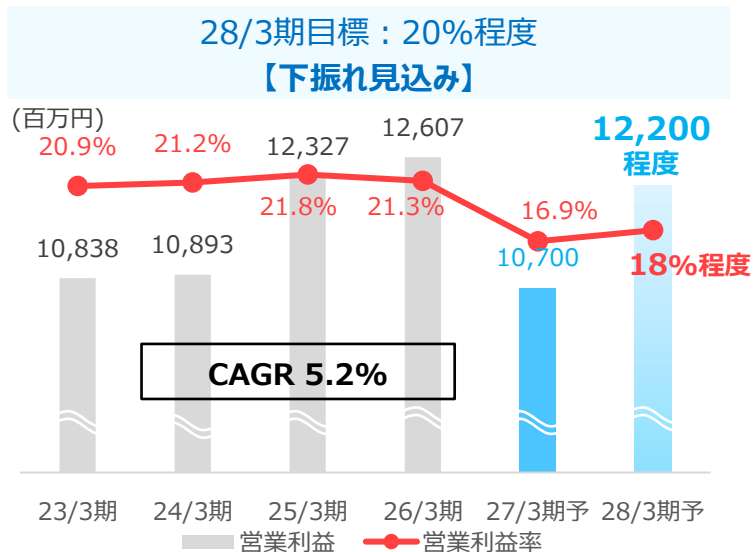
振り返り

- 中計3年目までで、CAGR4.6%の堅実な成長を達成
- EP/アブレーションや脳血管関連がけん引

見通し

- 27/3期は前期比6.8%の増収を見込む
- 中計最終年(28/3期) 700億円目標は維持**
⇒ 経カテーテル生体弁(TAVI)の薬事ストラテジーに変更あり、
上市が大幅に遅れる見込みだが、**EP/アブレーションの自社製
品(中隔穿刺ワイヤ等)で一定のカバーを見込む**

営業利益



振り返り

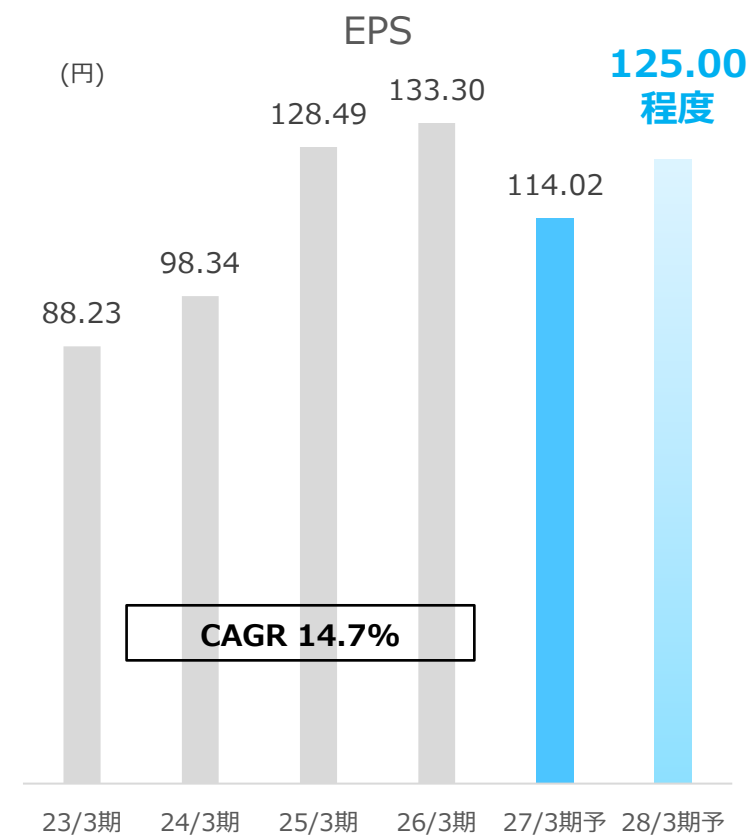
- 中計3年目までで、CAGR5.2%を達成
⇒ 高収益な自社製品が成長し、粗利率が改善

見通し

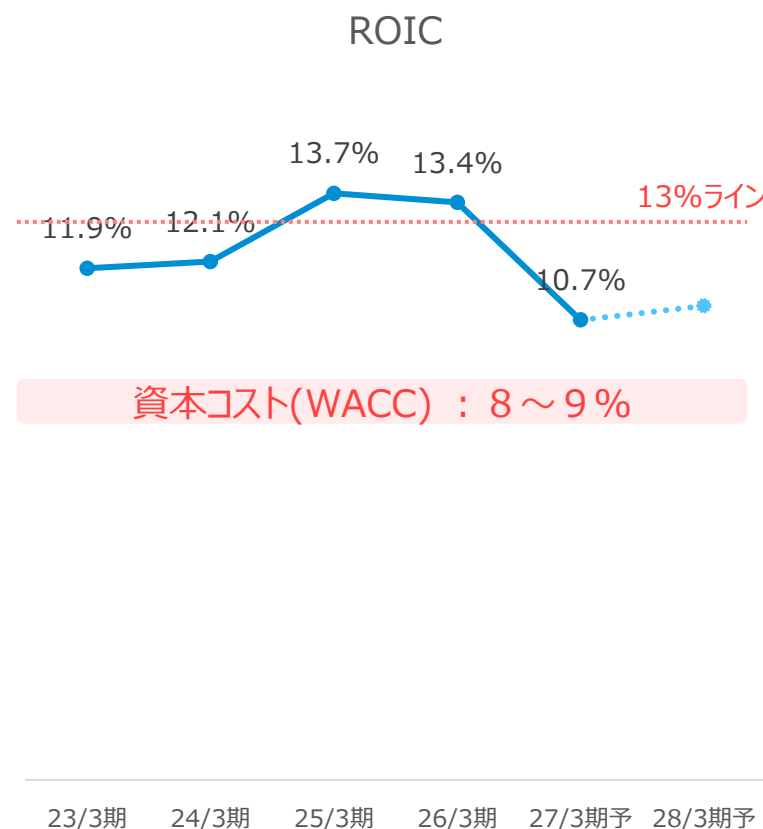
- 27/3期は成長投資を加速。さらに、インフレによるコスト増や本社
移転費用等の一過性要因も重なるため減益
- 28/3期も一定のコスト増要因は残るが、**トップラインの成長と一
過性要因の消失により、大きく増益となる見込み**

財務KPIの進捗/見通し② (EPS・ROIC)

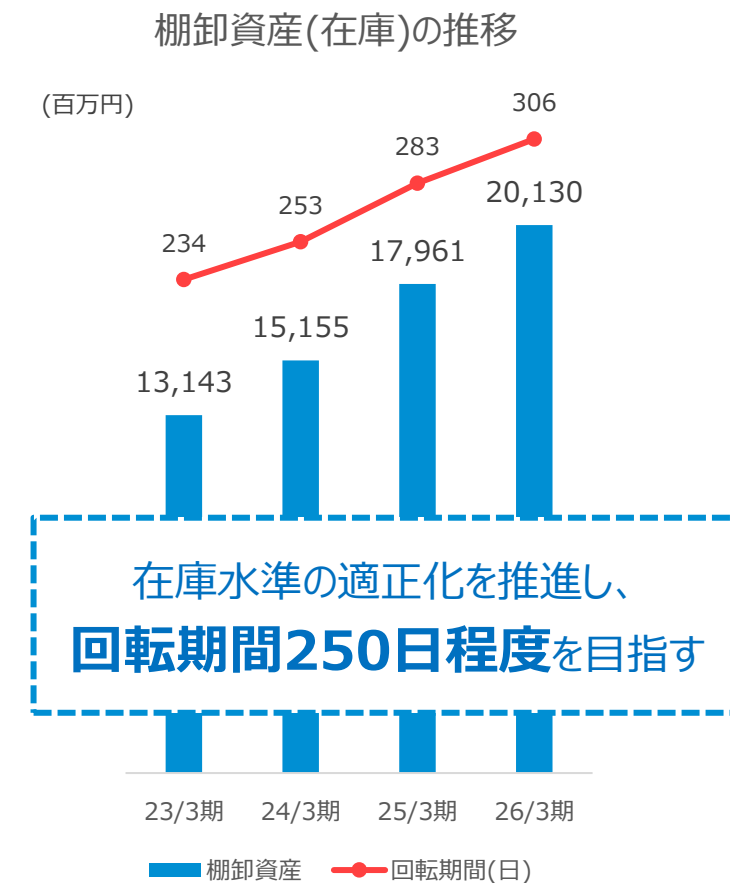
- ✓ 利益率の悪化により、EPSとROICは28/3期目標値を下回る見込み
- ✓ 資本効率の観点からは、とくに**在庫水準の適正化**を重要課題と認識し改善に取り組む



28/3期目標 : 145円
【下振れ見込み】

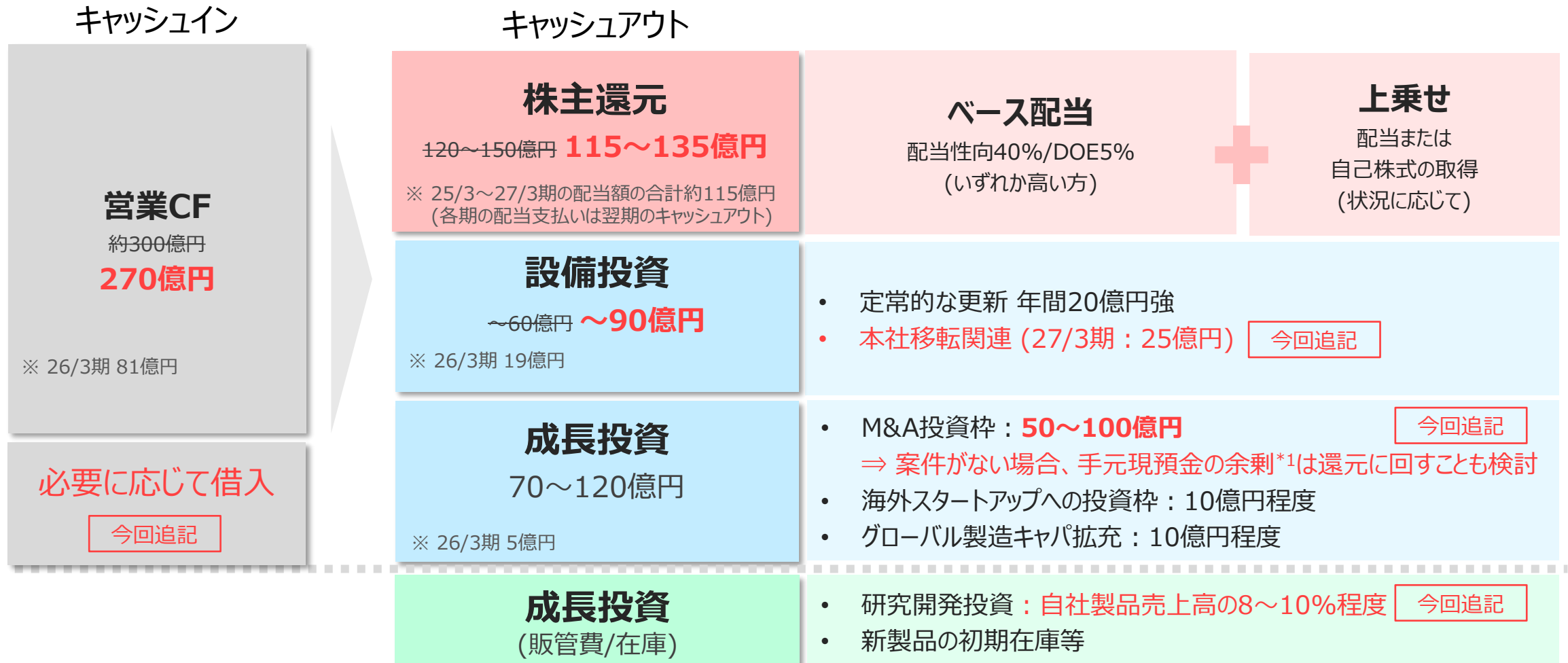


28/3期目標 : 13%
【下振れ見込み】



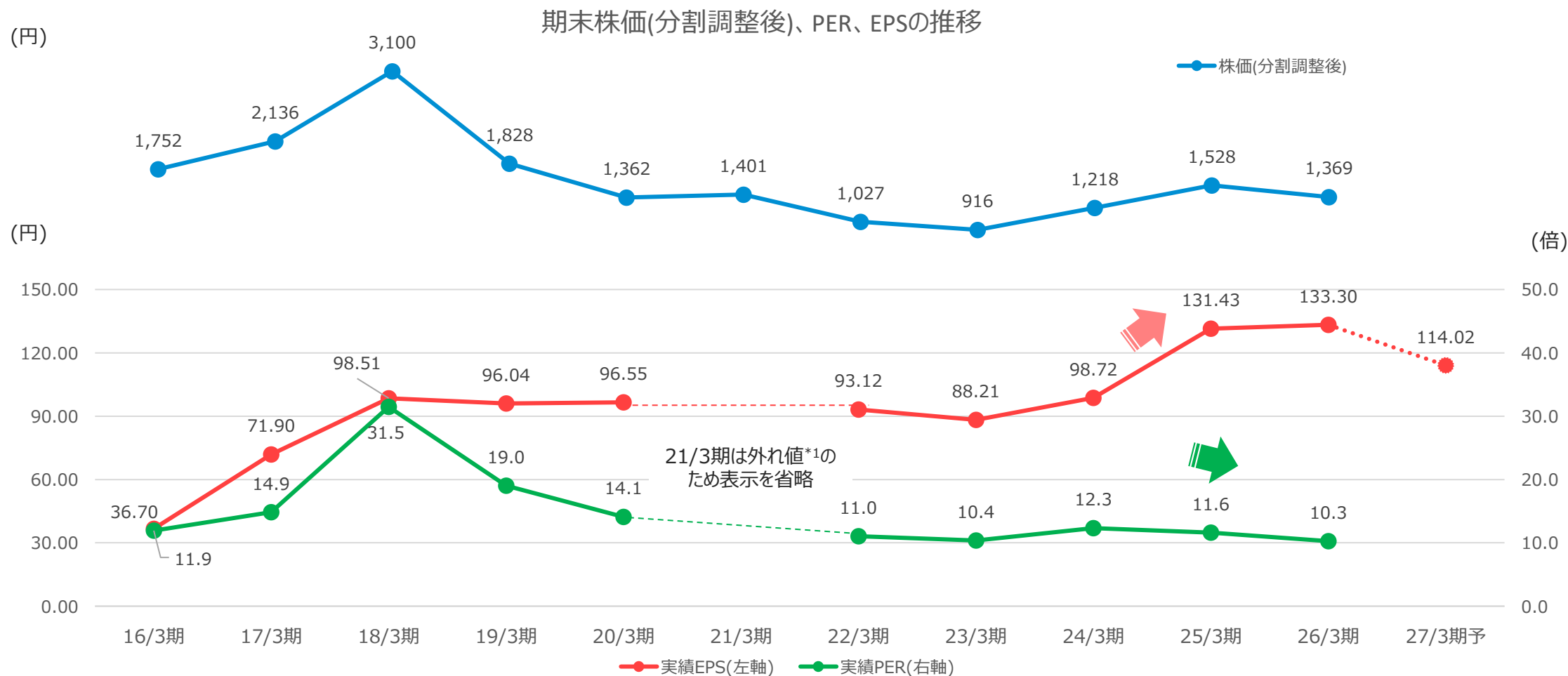
✓ 成長投資の大部分を営業CFで賄う方針は変更ないが、今後案件次第で借入も柔軟に検討

2026/3期～2028/3期 のキャッシュフローのイメージ



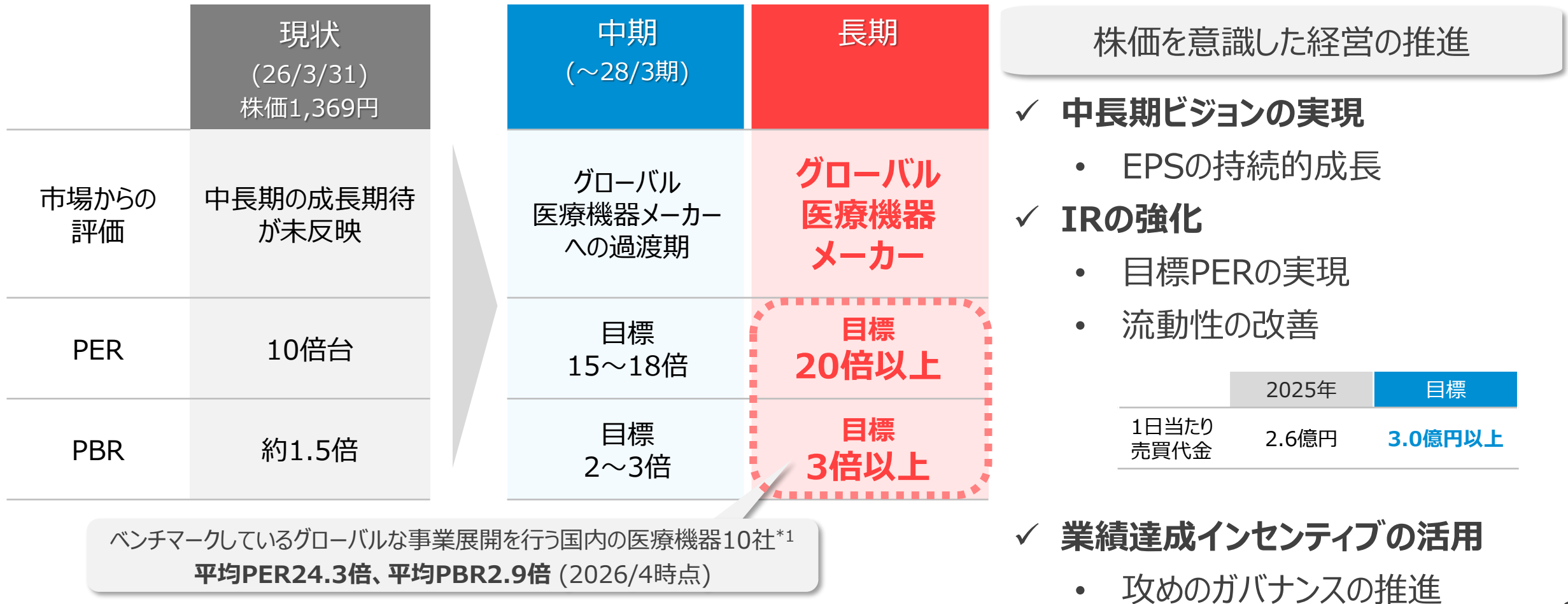
*1 100億円を超える分を「余剰」と定義する。ただし、30億円程度はM&A待機資金等のバッファとみなし、バッファを超える分について積極的に還元を検討する

- ✓ 22/3期以降、PERは10倍台前半で推移。**中長期での成長期待を醸成**し、グローバルへの変革を通じて**市場からの再評価**を目指す



*1 特別損失(貸倒引当金繰入等)を計上。PER56.2倍、EPS24.90円

- ✓ EPS成長を株価の上昇に結び付ける。将来的に、「**グローバル医療機器メーカー**」として**市場平均以上の評価をいただくこと**を目標として、事業活動とIR活動を推進



*1 HOYA、テルモ、富士フイルム、オリンパス、シスメックス、島津製作所、朝日インテック、日本光電、ニプロ、マニーの10社

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の仮定に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。特に新製品の導入、治験、薬事承認、発売時期等に関する予測には、多分に不確定要素が含まれています。実際の業績等は、市場環境の変化や規制動向など、様々な要因により大きく異なる可能性があることにご留意ください。また、本資料には未承認製品に関する情報が含まれていますが、これは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としたものではありません。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部IR課
TEL:03-6711-5214
E-Mail:ir@jll.co.jp
URL:<https://www.jll.co.jp>